

文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会 文化庁



新春 檜舞台

舞^ぶ 楽^{がく}
舞踊常磐津 舞^ぶ 楽^{がく}

蝶^{ちりょう}のたはむれ
水^{みづ} 芸^{げい}
菊^{きく}の栄^{さかえ}
萬^{まん}歳^{さい}楽^{らく}



2019年

1月27日(日) 午後2時開演(午後1時15分開場)

石川県立音楽堂 邦楽ホール

全席指定 一等3,500円 二等・車いす席2,500円 桟敷(2名まで)6000円 大向う1,000円

チケットのお求めは 石川県立音楽堂チケットボックス ☎076(232)8632

香林坊大和、ローソンチケット(Lコード55176)、チケットぴあ(Pコード485-320)、セブンチケット

【邦友会10%割引(一等席・二等席のみ)】【25歳以下当日50%割引(要証明/一等席・二等席のみ)】

託児ルーム(有料)あります。1月23日(水)の午後5時までに電話076(232)8111までお申し込み下さい。

※未就学児のご入場はご遠慮願います。※都合により、出演者・内容等が変更になる場合があります。予めご了承下さい。

□主催 (公財)石川県音楽文化振興事業団 □共催 (一財)石川県芸術文化協会、北國新聞社 □協賛 株式会社小堀酒造

★ホワイエにて、『萬歳楽』の振舞酒があります。

児玉 信(音楽堂邦楽アドバイザー)による『プレ講座』開催

★干支『亥』にちなんだ抽選会もあります。

1月16日(水)13:00~ 音楽堂地下1階 音楽資料室 受講無料 要事前申し込み

ぶがく まんざいらく
舞楽『萬歳楽』 洋遊会

雅楽の演奏形態の一つで、外来音楽である唐楽とうがくあるいは高麗楽こまがくの伴奏で演じる舞を舞楽といます。

舞楽『萬歳楽』は唐楽「萬歳楽」による舞で、四人の舞人が鳥兜とりかぶとを着けて舞います。唐の聖代の治世に鳳凰ほうおうがやってきて「聖王萬歳さいざい」と囀ったので、その声を楽にし、その姿を舞にしたという伝承があります。新春にふさわしい、長閑でめでたい曲です。



ぶよう ときわづ きく さかえ
舞踊常磐津『菊の栄』

常磐津は歌舞伎の伴奏音楽として発展した三味線音楽です。

『菊の栄』は、大正・昭和にかけて活躍した常磐津三味線方の人間国宝：常磐津菊三郎(1897～1976)が作曲しました。

歌詞は、千代見草ちよみぐさと異名のある菊の花を、草の主あるじであり空に輝く金星のようだと讃えて、幾とせ久しい秋津国あきづくにつまり日本の弥栄いやさかを寿ぎます。

菊を日本の象徴に見立てた、めでたくも愛らしい曲です。



藤間 勘広実



藤間 恭



藤間 直実



藤蔭 真紀乃



藤蔭 純

てづま みずげい ちょう
手妻『水芸』『蝶のたはむれ』ほか

日本に古くから口伝で受け継がれてきた奇術が手妻わづまで、和妻・品玉などとも呼ばれます。手を稲妻のように素早く動かすことから来た言葉といわれます。

新派劇『滝の白糸』でも有名な「水芸」は、水からくり、ともいいますが、和風作りの花舞台で繰り広げられる不思議に目を見張ります。手妻の第一人者による至芸は見てのお楽しみ。ほかに「蝶のたはむれ」「七変化」など、手妻の粋のオンパレードです。

手妻 藤山新太郎社中

三味線 杵家 七三
尺八・笛 竹井 誠
打楽器 盧 慶順
箏・十七絃 北川 聖子
箏・二十絃 城ヶ崎 美保



藤山 新太郎



藤山 大樹



あらたまの年たちかへるあしたより
待たるるものは鶯の声
素性法師

いち早く春を告げるとして、古くから人々は梅花とともに鶯の初音を愛でてきました。「新春檜舞台」は、春を招きます。今回の公演は、平和で明るい時代の、新しい扉が開く祝意を含みます。謳い上げる春の喜び！です。

